

第3回 学校運営協議会 会議録

開催日時	令和6年2月7日（水）13：10～14：40	
会場	本校会議室	
出席者数	学校運営協議会委員 8名	学校 6名
出席者氏名	会長（北海道教育大学函館校 教授）（オンライン） 委員A（今金町教育委員会 事務局長） 委員B（今金町農業協同組合長、後援会会長） 委員C（社会福祉法人光の里 施設長） 委員D（相談支援事業所相談室ひかり相談員） 委員E（今金町商工会女性部長） 委員F（寒昇町内会 会長） 委員G（北海道今金高等養護学校長）	・教 頭 金子 亘喜 ・事務長 市川 聡 ・教務部長 山本 拓郎 ・総務部長 内田 義文 ・進路指導部長 田中 博昭 ・支援部長 山田みゆき
次第および校長が意見を求めた事項		学校運営協議会委員の意見
[本日の予定] 1 開会 2 学校長あいさつ 3 学校運営協議会会長あいさつ 4 日程説明 5 今年度の学校運営協議会の振り返り 6 次年度の学校運営協議会委員について 7 次年度の学校運営協議会について（部会の推進） 8 令和5年度学校評価について 9 次年度の経営方針、重点目標について（承認） 10 委員との意見交流、質疑 11 その他、諸連絡 12 校長あいさつ 13 閉会 ＊＊以下記録＊＊ 2 学校長あいさつ 御多用の中、第3回学校運営協議会にご出席いただきありがとうございます。改めまして、委員の皆様には、日頃より本校の教育活動に対しまして、多大な御理解と御協力をいただいておりますことをこの場を借りて御礼申し上げます。本日は、新たに会長に就任いただきました、北海道教育大学函館校の細谷教授がオンラインで参加しております。 さて、令和5年度は5月に新型コロナウイルス感染症が感染法上の位置付けが5類に移行しまして、学校教育はウィズコロナ、アフターコロナの教育活動となりました。コロナ以前に戻すのかまたは新たな形とするのか、これまでの3年間を経て、以前にも増して教職員の創意工夫が求められているところです。コロナ禍の3年間を振り返りますと、GIGA スクール構想はオンライン授業や ICT の活用等、大きな進歩を遂げている一方、行事等については、削減や縮小が図られ、コロナ以前の行事の在り様を知らない教職員も増えております。改めて教育的価値が問い直されています。加えて学校においては、働き方改革の実践は待ったなしとなっております。教職員の心身の健康の維持はもちろんですが、生徒にしっかり向き合える時間の確保、並びに少子高齢化による生産年齢人口の減少に伴う教職員への有能な人材の確保は喫緊の課題であります。さらに、グローバル化、ダイバーシティの進展、国連の勧告など時代は大きな転換期を迎えております。学校はそのよう		

な時代の動向を踏まえた学校経営を行っていくことが求められておりますので、そのためにもこのCSの会議は重要な役割と機能があります。今回は、今年度の学校評価の結果とそれを踏まえた学校経営方針（案）について短時間ではありますが、説明をさせていただきます。次年度の学校経営に生かせるよう、委員の皆様本日は忌憚のない、御意見、御示唆をいただければと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。 3 学校運営協議会会長あいさつ 北海道教育大学の細谷でございます。10月1日から前任の北村先生が函館のキャンパス長になられたことに伴って、北村先生から学校運営協議会会長を引き継いでおります。私自身は北海道は縁もゆかりもない土地で、もともとは新潟県で小学校の特別支援学級、公立の知的障害と肢体不自由の特別支援学校の教員をさせていただいておりました。15年前に函館校に着任いたしまして、本日に至っているわけであります。専門は特別支援教育の中でも、知的障害の障害が重い子ども達のエデュケーション現場で担当してきています。何かお役に立てることがございましたら、言っていただければと思いますので、今後もよろしくお願いいたします。 4 日程説明 ＊次第のとおり 5 今年度の学校運営協議会の振り返り ＊別紙、第2回学校運営協議会 部会協議に関してのとおり 6 次年度の学校運営協議会委員について 2年任期の1年目になっている。次年度も継続になります。辞退したい方がいらっしゃれば個別に相談を受けたいと思いますが、可能であれば、次年度も引き続きお願いしたい。 7 次年度の学校運営協議会について（部会の推進） ＊資料なし 今回は3つのグループに分かれて熟議を行った。地域との連携、学校経営の具現化、色々な立場の方々から、貴重な御意見、御感想をいただける機会でもある。立てた協議の柱は、まだ話を深めることができますので、今年度の協議の柱をそのまま次年度も継続させていただいて、グループのメンバーを入れ替えて再検討できればいい。また新たな課題等が出てきた段階で加えていく。次年度においては新入生が定員を満たして合格をしていくことになる予定。今までこの3年間定員を割っている中で進んできた学校経営だったので、その辺を踏まえながら話し合いができればいい。	・質疑なし ・質疑なし ○委員C 「学校運営協議会委員について、次年度も継続ということだが、小林さんも継続になるのか？」
--	---

○委員G 「御本人とも話をしているが、現段階では辞退の方向で進めている。」 ○委員G 「できれば、後任を探したい。」 ○委員G 「今金町の地域の連携協定は、ここまで進んでいる地域はなかなかないので、当然継続していきたいと思っている。子どもの実態などの面で条件と合わない部分があり、ここ数年途絶えているが、理念は継承している。」 ○田中 「現在2学年男子の中で、事務を希望している生徒がいる。函館の生徒ではあるが、この後の進路で定着できる環境を整えば、選択肢もある。」 「就労支援事業について、実習という形で何名か生徒を送っているが、残念ながらメンタル的に弱い部分があり、実習後に進路を選択できない。役場でお世話になっている本校の卒業生で就労支援事業を使ったあとで、正規職員で採用をいただいたが現在は状況が良くない。一般就労はハードルが高く、メンタルや職業能力など様々な面でしっかりしていかないと、定着につながっていかない。農協さんにもAコープの就労で迷惑をかけているので、一般就労のハードルを高くせざるを得ない。配慮が必要な生徒が実習に行き、就労するという部分については、他の町村に比べて、移行がスムーズに進む要素があるので、それを生かしていけば、生徒が増える可能性はあると考えられる。制度があっても、使わないと継承が上手くいかない部分があるので、学校のほうでも一般就労のハードルを少し下げてもいいのではないかなと思う。JAさんや役場と共通理解が図れれば、ハードルを下げて生徒を挑戦させることができると御理解いただきたい。」	○委員A 「勝手に辞めさせられたとならないように、御本人に確認を取った方が良いのではないかな？紙面に残したほうが良い」 「後任は検討するのか、欠員のままなのか？」 ○委員A 「今金町でやっている就労支援事業について、継続して使っていたほうが現場も環境が整ってくると思うが、空いてしまえば、前のときはどうだったのかということになるので、できればつないでやっていったほうがいい。」 ○委員D 「今年度や次年度も対象の生徒はいないのか？」 ○委員A 「町としては、就労支援なので難しく考えなくてもいいと思っている。一般就労するために、その子が何ができるどんな能力があるかを伸ばすために使ってもらえたらいい。」 「無理に3年間いる必要もなく、1年、半年
--	--

○田中 「実習に出した生徒も担任と相談して、実習をさせていただき、旧石器文化館など、色々なところに行き、体験をさせていただいたことは学校でも十分把握している。知的障害だからこそ、長期就労でできるだけ環境が変わらない中で自分ができる仕事を増やしていくことが長期就労に関わる大事なところだと思っているので、お力添えをいただきたい。」 8 令和5年度学校評価について *別紙、学校評価資料のとおり *エアコンの設置について ○市川 「昨年の猛暑を受けて、道教委、道議会でも全ての道立学校に空調設備を設置するための補正予算案が可決された。本校においても、空調設備または、簡易型空調機器を全教室、寄宿舎は舎室と舎務室に整備されることになっている。本校は3月中に舎室と舎務室に移動式のクーラーを20台（各舎室に1台、舎務室に1台）導入予定。HR教室、職員室その他の教室については、6～7月を目途に納入される見込み。本校は普通高校に比べ、教室が狭いため、移動式になるか簡易型になるかは未定だが、15台（HR教室9台、職員室等6台）整備される予定。エアコンについては、25校の特別支援学校が選定され、令和7年度に向けて設置される。本校は選定されていない。選定基準は『直近3か年で、最高気温が28℃を超える日が、年平均10日以上地域に所在する肢体不自由特別支援学校及び、知的障害特別支援学校の小中学部併置校』となっているので、本校については当てはまらず選定されていないため、簡易型または移動式のクーラーが設置される。空調設備導入に伴い、電気代が増額することが考えられ、予算の面では不安があるが生徒の体調面では以前に比べ、改善されるのではないかな。」 9 次年度の経営方針、重点目標について（承認） *別紙、経営方針・重点のとおり 10 委員との意見交流、質疑 *諸連絡	でリタイアするのは仕方ない。その中でその子がやれることを見定めていければ、幅広く仕事をさせてあげることができる。すぐに一般就労ではないという位置付けで、まずは経験やどこまでできるのかななどを判断するために、上手く使ってほしい。相談してもらえれば、対応できると思う。」 ・質疑なし ○委員B 「アンケートの結果を大前提にしながら、学校経営方針を作っていただいたと思っている。課題等の反省すべき部分は取り組んできていると思う。地域として学校をバックアップしたい。」 ・経営方針、重点目標について承認
--	--

○市川 「令和３年度の設計から始まり、４年度、５年度、の２年間をかけて、校舎、寄宿舎、体育館の改修工事を行った。令和４年度は校舎の内部工事（照明のLED化、配管）、寄宿舎の外壁、令和５年度については、校舎の外壁、寄宿舎の内部工事（校舎と同様）を行った。本日現在、一部の手直し作業が残っているがおおむね作業が終了し、２月１９日に完成検査の予定。当初はプールの改修工事も含まれていたが、劣化が進んでおり、予算の都合上大規模改修工事の中で改修ができなくなった。令和６年度の１年間をかけて、プールの全面改修をする予定。１月２９日に初回の工事打合せを行った。令和６年６月から令和７年２月にかけて改修工事を行い。令和７年度の夏から授業で使えるように進めていく予定。施工する業者については、今後入札し、決定次第お知らせする。」 ＊意見交換 ○金子 「現在は４２名が入舎しており、定員が７６名となっている。３月に３年生が卒業し、２４名の新入生が入舎しても空きがある状態である。」 ○金子 「今のところ、全員入舎予定である。」 ○委員Ｇ 「全道的にも寄宿舎離れが進んでいる。本校でも、タブレットなどの使用時間を改善し、自由度を増している。食堂についても、ラウンジとして社会に出た後のことを見据え、舎室もGHのように個人部屋のような形で活用するなど、寄宿舎で学ぶことの大切さを生徒や保護者にも理解してもらえるように工夫している。」 ○金子 「持ち込みはできるが、利用時間が限られているため、規制を緩和する方向で話をしている。」 ○委員Ｇ 「現在は許可制となっており、校長が許可をすることになっている。」	○委員Ｃ 「次年度、定員を満たす生徒が入学するということだが、入舎率はどのくらいか？」 ○委員Ｃ 「入学する生徒全員が入舎するのか？」 ○委員Ｃ 「入学する子は初めての寄宿舎での集団生活をするが、規制が多いから、子ども達は入りたくないのかと思うが、入ってみれば、楽しい部分もあると思う。以前、寄宿舎自体が敬遠されている話も聞いたので、気になった。」 ○委員Ｃ 「携帯電話の持ち込みはできるのか？」 ○委員Ｃ 「経営方針にもあったように、スマホを使っ
--	---

○金子 「スマホに関しては、使わせないデメリットのほうが大きい。在籍している3年間は使わせて失敗しても、指導ができる。3年間規制したまま生活し、いざ社会に出て失敗すると大きな損害が生じる。」 ○金子 「ゲームにのめりこんでしまい、朝起きられないなどもある。それであれば、実際に使わせて、失敗をさせて、学ばせるほうがいいという考えになってきた。」 ○金子 「今金町内の子でも、実際に寄宿舎を使っている子もいる。卒業後の生活にどれだけ差が出るのか難しいところではある。」	た誹謗中傷などの見えないいじめが社会問題になっている。スマホは便利だが、使い方によっては最悪のツールになってしまう。」 ○委員C 「多額の請求がくるケースも多い」 ○委員C 「生活に必要なツールになってきた。」 ○委員B 「スマホの危険な面を3年間でしっかりと指導をしたほうがいい。」 ○委員D 「24名の新生は全員寄宿舎を利用するということがあったが、今の3年生にも使っていない方が何名かいる。今金町出身の方は家から通えるということで、使っていない方がいるということは聞いていた。今金町に残るお子さんで、相談室ひかりで計画作成をするため、面談を行った。子どもを自立させたい親の思いと自立したい子どもの思いが時代と共に変わってきた。基本的な生活スキルを、寄宿舎に入らなくても、家庭で親が教えるなど、一人暮らしに向けて取り組んでいる親もいる。2年前の卒業生の例でいうと、母親はGHに入れたかったが、本人はGHに入る理由が分からず、2年間自宅から通っていた。そのときに、自分は家から出たいと感じ、GHに入ったということがあった。気持ちの面で親から離れて自立できる時期は個人個人で違うと思う。」 ○委員D 「いずれは自立をするが、一人暮らしだけが自立ではない。親が先に亡くなるので、そういう思いはしっかりもっていてほしい。」 ○委員E 「アンケートでは、お子さんも保護者の方も素直にいろいろなことを書いてくださって
--	---

いるので、先生方の力で、1人でも嫌な思いをする子がいないように、指導をしていただきたい。地域でできることは私たちが考えて協力していきたい。自立の話になると、GHに入るのが嫌だというのはあるようなので、寄宿舎を出て、解放された気持ちになるのだろうが、それが危険だと感じた。」

○委員F

「校長の方針の中に地域との共生とあったが、私たちも春の清掃やマラソン大会などでお世話になっている。特に秋祭りでは、平日ということもあり、参加できる人が少なく頭を痛めていたが、たくさんの人に手伝ってもらって、お世話になった。そういうことから学校と地域との連携はできていると感じている。また、窯業科の製品にはマンガンを使用してもらっていることも大変助かっている。」

○会長

「今金高等養護学校は12、3年前に学生の卒業で伺った以来、伺っていない上にオンラインでの参加になり、申し訳なく思っている。子ども達は将来、知的障害者として生きていくのではなく、人として生きていくので、人としてどう豊かに生きていくかということが求められている。通常学校にいる子ども達が人としてどう豊かに生きるのかを学んでいく方法と、知的障害や発達障害をもったお子さんでは、学び方が違う。特別支援教育は方法論なので、グランドデザインからも分かるように、最終的には子ども達が人としてどう豊かに生きていくかが求められる。そういう特別支援教育をしていく必要があると感じた。それと同時に、今後学校で取り組んでほしいのは、在学中は友達関係が割と作りやすいが、社会に出たときに、在学していたときの友人関係が切れてしまうことが課題の1つと思っている。社会に出ると、新しい友人関係を作っていかなければならないが、学校のようにそれを支えてくれるような人がいないので、自分で友人関係を作っていかなければならない。それが、子ども達が社会に出たときに直面する課題だと感じている。今金町のように町がバックアップしてくれる町だけではないので、働くことに関しては、おそらく学校の先生よりも、社会の人のほうが働くことを教えるのは上手いと思っているが友達をどう作るかという部分は教員のほうが上手い。人としてどう豊かに生きていくのがキャリアであって、その先に共生社会の担い手というところにつながっ

ていくのではない。細かく考えれば、本人の自己肯定感を高めることに直結していく。自立していくという部分では、知り合いの肢体不自由の方に、「私にとって自立とは、誰かに助けを求めること」と言われたことがある。肢体不自由であるがゆえに、自由に体を動かせなかったり、行きたいところに行けなかったりするので、絶対に誰かの助けが必要である。他者に助けを求める力を付けることが自立する力だと言われたことが今でも自分の中に残っている。これは知的障害や発達障害にも共通していて、自分でできないことは助けを求めればいいが、他者に助けを求めることが難しいのが知的障害や発達障害のお子さんなので、そういう力を身に付けられるといいと感じる。」

12 校長あいさつ

学校として、いい話を承りました。いつも変わらぬ今金町の支援、地域の支援をいただいておりますが、今後も変わらぬ御支援をよろしくお願いします。その期待と御支援に相応しい子ども達を育てていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

上記のとおり会議を開催した。

令和6年2月7日

北海道今金高等養護学校長 飯 出 広

